

発行
 (特活)CODE海外災害救援市民センター
 〒652-0801 神戸市兵庫区中道通2-1-10
 TEL: 078-578-7744 FAX: 078-574-0702
 E-mail: info@code-jp.org
 HP URL: <http://www.code-jp.org/>
 郵便振替: 00930-0-330579

今号の内容

- P.1 卷頭言
- P.2~4 特集:CODE 未来基金
 インターンシップ
- P.5~6 プロジェクト報告
- P.7~9 月☆イチシリーズ 食と国際協力
- P.10 イベント案内、お知らせ
- P.11 CODE 役員・スタッフ活動記録
- P.12 寄付者ご芳名



卷頭言 「NGO の世代交代と経験の蓄積」 (CODE 代表理事 芹田健太郎)

阪神淡路大震災から23年が経ち、最近 NGO の世界で、世代交代論と経験の継続がしきりと話されるようになった。一つには、当時、ボランティア活動をしていた人たちが組織を立ち上げ、組織として活動してきたが、当時の中心的な存在であった30代から40代の人たちが60代に差し掛かり、また、50代だったリーダー的存在だった人々は70歳を越しているからである。この間に社会は変わったのだろうか。東日本大震災があり、熊本地震があった。ボランティアは確かに増えた。ボランティアのまとめ役として社協が多用されるようにならうか。役所あるいは社協が受け入れそのものにかかり、危険もあり必要な場合もあるにしろ、時にボランティアが入って来るのを断つたり、行って働く場所を指定したり、ボランティアが自己の意思で働く、というより、行政の下働きをせられているのではないかと思われるような現象が、現場で見られることがあるやに聞き及んでいる。現場での調整は必要なことは誰も否定しない。役所との協働も必要である。しかし、阪神淡路以来のノーハウはどこに蓄積されているのであろうか。

視点を変えてみよう。周知のように、阪神淡路大震災を契機に、いわゆる NPO 法が成立した。同法は「ボラン

ティア活動をはじめとする市民が行う自由な社会貢献活動」について、「不特定かつ多数のものの利益の増進に寄与することを主たる目的とする」別表に掲げる20の活動を特定非営利活動とした。そもそも、しかし、阪神淡路大震災で駆けつけてきた人たちや東北にまで出かけた人々は、やむに已まれず行動をした人たちであった。その心根がいわゆるボランティア活動の原動力ではなかったのか。誰にも言われず、秘かに決めた、のであった。この心根こそ継承すべきものであり、しかも、人が人である限り、この心根はすべての人に宿っている。団体と位置付けられるとき、人は「公益」を政府とともに担う存在となる。

公益は、そもそも、政府が担ってきた。それを軽減するために、人はいわゆるボランティアとして出かけるのではない。仕事として公益に携わっている者の代わりでも補助でもない。まして、上から目線で「公益」を決めることを政府に委ねているのではない。私たちがいわゆる世代交代で引き継ぐものは、老若男女、私たちの中にある。老壯青の役割は経験の蓄積を伝えるときに役立ってくる。十分に再考したい。

CODE 代表理事 芹田健太郎



CODE 未来基金インターンシッププログラム ～インターンシップを終えた今、僕が思うこと～

CODE でのインターンの半年を終えて、大学に復学をして愛媛で今この文章を書いています。CODE での半年間を振り返ると、とても短かったようで、長かったようなそんな時間を過ごしました。ここでは、半年のインターンを終えた“今”僕が思うことをインターンの日々を思い出しながら書かせていただこうと思います。

インターンを始めた理由

そもそも僕が CODE でのインターンを始めた理由は、以前の CODE Letter にも書きましたが、大学3年生を迎えた時に周りが就活や教育実習に向けて動き出す中、僕の中では NGO で社会のためになることを将来

の仕事にしたという考えが湧いてきていました。しかし、憧ればかりでどんなスキルが必要なのか、どんな仕事なのか知らない僕には、本気でその世界を目指すのか、同級生と一緒に一般企業の就活をするのか決断することができませんでした。そこで僕は NGO の世界についてもっと知つてから、どちらにするか決断しようと思い、インターンを始めることを決断しました。

半年間の学び

インターンは半年間という短い期間でしたが、NGO の事務所という現場での仕事を色々と経験することができ、活動を行う中で、様々な学び

2017年10月1日～2018年3月31日までの半年間、高橋大希(当時:愛媛大学3年生)はCODE未来基金によるインターンとして、CODE海外災害援助市民センターで働いてきました。インターンを行う前に「NGOの仕事について知りたい」と語った高橋大希は半年間で何を学び、何を感じ取ったのでしょうか。本人にインターンシップの半年間を振り返っていただきました。

四川省のフィールドへ

インターン期間の半分ほどが過ぎたころに、よく「インターンで学んだことは何か?」という質問を受けるようになりました。その頃の僕は、「NGOで実際に働いたことで、NGOがどんな仕事が分かり、実際に就職の選択肢として考えられるようになった」という風に言っていました。しかし、自分でなんとなく腑に落ちていないような、自分の本当に思っている言葉ではないようなそんな感じがしていました。

この感じのままインターンシップが終わるのだろうかと感じていた3月半ばに、中国の四川省へ訪れる機会を頂きました。

中国の四川省では2008年に起きた四川大地震に関係する様々な場所に訪れました。それが僕の中ではとても大きな学びになりましたが、特にCODEがプロジェクトを行っている場所である「光明村」で過ごした時間が1番心に残っています。

事務所で、一人でも多くの人にCODEを知らせるために、少しでも多くの資金を集めるために活動をしていたことが光明村の老年活動センターをみた時にこういふ風に日本での活動が報われているのだと目の当たりにすることことができとてもうれしかったことを覚えています。

光明村を訪れた時、震災以来CODEと関わっている村の方に、「吉椿さんをはじめとする外国人ボランティアは皆さんにとってどのような存在ですか?」ということを尋ねました。

村の方々は、「中国と日本との関係性はどうなろうと変わらない永久の友達だよ。」といっていました。また、1人の女性の方は今年で四川大地震から10年でプロジェクトが終わることをとても悲しく思つていて、まだ関わり続けてもらうために違うプロジェクトの提案をずっとしていました。そんな関係性をとてもいいなとその時はただただ感じていました。

本当に必要な役割とは?

光明村から帰った日の夜、震災当時のボランティアの方のお話を聞く機会がありました。その時に、吉椿さんが言った「小さなことに寄り添えるのは俺たちしかいない」という言葉がなぜだからその時にとても心に響きました。

震災が起きたときには、本当にたくさんの役割が必要になるのだと思います。

緊急の支援をする人たちや、物資を援助する人たち、状況を世界に伝える人たち、どれが正しくて、どれが間違っているということは無くそれぞれが必要で大切な役割なのだと思います。

『就職』をして『社会人』になるということは、この社会の中での立ち位置や役割を決める一つなのだと思います。そして、色々な役割や立場が必要でそこには優劣はなく、自分が何をしたいかなのだと思います。



ネパール報告会にて



上:半年間で様々な若者集まりを企画

下:サポートーミーティングではファシリテーターに



四川省・光明村にて

そのことに気づいたときに、なぜ自分が「NGOで実際に働いたことで、NGOがどんな仕事かが分かり、実際に就職の選択肢として考えられるようになった」という言葉に違和感を持っていたのかが分かったように思います。

一人ひとりに向こう

NGOがどんな仕事かが分かり、就職の選択肢となっただけでは不十分で、なぜ自分自身がNGOで働きたい

のかという、NGOについて考えながらもっともっと自分自身について考えなければならなかつたんだと思います。

ただ僕は、目の前の一人ひとりの、一つひとつの小さな問題に真正面から向き合う、そんな小さなことに命を燃やす生き方をとてもかっこいい今は感じています。

僕はこの半年間でこれだけの成長をしました、こういったスキルを身に

つけました、と胸を張って言えるものは正直ありません。

しかし、この半年間の経験から自分が何を大切にしたいのかということに気づくことができました。

半年間のインターンシップを振り返り、本当にやってよかったと今振り返っても感じています。この半年間、未来基金サポーターの方をはじめ本当にたくさんの方のおかげでよい時間を過ごすことが出来ました。本当にありがとうございました。(高橋大希)

「自分事にする。～インターン生と過ごして～」

CODE 事務局長 吉椿 雅道

「お会いしたいです。どこでも行きます！」と一本のメッセージが届いた。NHK「プロフェッショナル」を観た大学生からだった。そして実際に愛媛から神戸にやってきた。喫茶店で3時間ほど国際協力やボランティアの話しを交わした。それが、高橋大希だった。

2017年2月には未来基金のフィールドワークでネパールの村でも共に過ごした。村では言葉も通じないのに、「何かお手伝いできることはありますか?」というネパール語だけ覚えて、いつのまにか家に入り込み、手を血だらけにしながらトウモロコシの実をむく手伝いをしていた。彼は、天性の明るさとコミュニケーション能力を持っている。

その後、大学を半年休学して

CODEにインターンにやってきた。事務作業の現場では、未来基金の厳しい状況に頭を抱えながら、若者のネットワークをつなぎ直し、自分に出来ることを必死に模索していた。外から見ていたNGOと実際に働いてみたことで見えてきたNGOという仕事のやりがい、そしてその現実の厳しさも同時に感じていたようだ。

彼は、インターン中に日々感じたことを「だいき日記」に綴った。何気ない会話の中で語った言葉を、伸びをせずに正直に書いていた。その自問自答を繰り返す彼の姿勢に共感する人は少くなかった。

インターンの締めくくりとして、CODEが2008年の地震以来支援している中国四川省の現場を訪れた。

地震直後のままを残した震災遺構では、頭をもたげながら必死に想像しようとしている姿、光明村の人たちに当時のボランティアとの出会いを聞いている時の嬉しそうな表情、すべて自分事のようだった。

そして最終日、参加者同士で感想をシェアした時、泣きながら四川で感じたことを語った。「世界には色々な仕事があり、色々な立ち位置がある。CODEのような小さな事に命を燃やす生き方をしたい」と。

半年間、大希はCODEを自分事にしようとしていた。インターンとして何かをさせてもらうというものではなく、CODEの現場の一つひとつを自分のことのように時に喜び、時に悩み、日々を過ごした。大希の今後に期待したい。(吉椿雅道)

プロジェクト

報告

PROJECT REPORT

ネパール地震救援活動(2015年～)

「ネパール地震から3年とネパール支援活動報告会 in モンベル」

2015年4月25日にネパール中部を震源に発生したM7.8の地震では、隣国のインドやバングラデシュ、チベットを含めると9000名以上の方が犠牲になりました。

2018年2月3日、CODEはアウトドアブランドのモンベルとコラボで神戸三宮店でネパール地震支援活動やCODE未来基金で現地を訪れた若者たちの報告を行いました。震災から3年を目前にして、約40名の方々にお越しいただきました。

現在、ネパールの被災地では、政府(復興庁)の力量不足により、住宅再建が滞っており、未だ仮設住宅に暮らす方も多く、都市部と山間部では復興に大きな格差が生じています。この報告会では、3年の現地の状況やCODEがこれまで行って来た耐震住宅再建の詳細、その後の支援の方向性などを報告いたしました。

また、未来基金でグドル村を訪れた3名の若者からもそれぞれ報告があり、現地での学びやその後の進路にも大きな影響を受けたことが語られました。

ネパール地震直後、モンベルのCSRで、スタッフやネパールの被災者たちへの救援物資としてテントやジャケット、バックパックなどをご提供いただいたことがきっかけで、この報告会を開催することとなりました。この報告会でも、現地でのモンベル商品の使われ方も報告させていただきました。今回、モンベルで行った事によってネパールやアウトドアに関心のある方など、普段お会いする機会のない方々にも出会う機会となりました。今後もモンベルなど様々な方々とコラボしていくつもりです。ご協力のほどよろしくお願ひいたします。(吉椿雅道)



建設中の耐震住宅(シンドバルチョーク郡)



モンベル報告会の様子

連続するメキシコ地震救援活動(2017)

9月7日にはメキシコ南部で、19日にはメキシコシティ付近で大きな地震が連続して発生しました。

これまで中南米での災害救援プロジェクトにおいて協力してきたクワテモック・アバルカさん(メキシコシティ在住)は10月にはメキシコシティ近隣の被災地域や南部の被災地へ入り、被災者への食糧配給などの活動を開始。メキシコ南部のオアハカ、プエブラ、メキシコ中部のモレロス、メキシコシティの各地に、50トンの食料、薬品、水、毛布などを集めて送ったと報告しています。その後、クワテモックさんは地元のボランティアとともにメキシコシティ郊外のサンゴレゴリオ・アトラブルコにて医療支援を行い、医療機関や地震で腰と膝を痛めて寝たきりとなった女性など在宅で療養を続ける患者に薬など医療用品を提供しました。(上野智彦)



医療物資を提供するクワテモックさん

四川大地震救援活動(2008~)

2008年5月12日。あの日からまもなく10年が経とうとしています。M8.0の巨大地震が中国四川省で発生し、死者6万9226人、行方不明者1万7923人、被災者約4624万人という甚大な被害を出しました。CODEは、最大の被災地である北川県にある人口約700人の光明村を支援してきました。多国籍のボランティアによるガレキの撤去や仮設住宅建設のサポート、お祭りの開催、住宅再建の際の伝統木造のデザイン提供などを行ってきました。また、村の高齢者のために建設した老年活動センターは、その後、村民によって農家樂(アグリツーリズム)として農家レストランとして活用されていますが、まだ軌道に乗っている状態ではありません。先日、訪問した際に、地元の政府や村の書

記と協議をし、周辺の観光開発の動向を見ながら、農家樂として活用していく方針であることを確認してきました。今後も現地の動向を見守っていきます。

また、4年前から実施している日本NGOボランティア研修交流事業では、これまでにのべ14名の若者たちと四川を訪れ、観光復興の視察や被災者との交流、NGOとの学び合いを行ってきました。近年は、現地NGOとの防災教育の学び合いも行っています。(詳細は次号の特集で!)2018年は、神戸大学生4名が、未来基金を通じて四川で「食」を学びました。今年は10周年なので、現地NGOと協働で10周年シンポジウムの開催や震災当時のボランティアと光明村村民の交流会などを企画しています。(吉椿雅道)



四川省雅安興賢小学校で防災教育の交流
(第4回日中NGOボランティア研修交流)



四川地震10周年シンポジウムの様子
日中の専門家による様々な報告



文責 柳瀬彩香 (第36回~39回) 高橋大希 (第40回)

第36回 フィリピンに出会って～地元の人の暮らしに触れる～

2017年10月19日開催 語り手:立部知保里(兵庫県立大学大学院)

第36回のテーマはフィリピンです。2013年にフィリピンの中部を史上最大級の台風 Haiyan が襲いました。CODEはセブ島北部とバンタヤン島で漁業支援プロジェクトを立ち上げ、被災した漁民にボートや網の提供を行いました。

今回の語り手の立部さんは東京外国語大学でフィリピン語を専攻し、1年間フィリピン大学での留学を経験しました。その後、社会人を経て現在の大学院に入學し、フィリピンをフィールドに研究をしています。2017年の夏にCODEとともに現地の女性の生活向上に向けてワークショップなどをバンタヤン島で行いました。

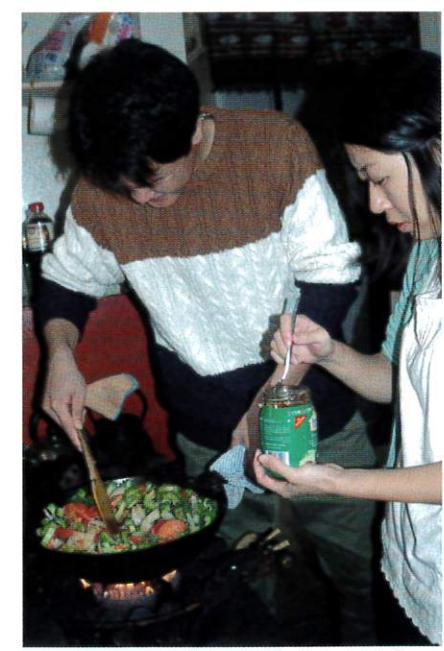
立部さんは「人それぞれの幸せのか

たちがあって、災害が起ると誰もが幸せと思えない状況に陥ってしまうのは少しでもなくすることはできないのか」「市民目線な防災ができないか」など他にもたくさんの疑問や葛藤を感じていたそうです。そこからフィリピンや途上国に関わっていきたいと思ったそうです。その思いを行動に移し、進路を選び学んでいる立部さんの姿勢は、興味を持ったことに突き進んでいて参加した学生にとって大きな刺激となりました。

今はフィリピンの大勢の子供の安全対策に興味があり、これからはお世話になったフィリピンに恩返していきたいとお話していました。

今回の食はアドボ(肉と野菜の煮込

み)とピナクベット(野菜の塩辛煮込み)でした。



ピナクベットをつくる立部さん(右)

第37回 ネパールの若者と語り合う～シェルパ若者と日本の若者～

2017年11月16日開催 語り手：ニマ・シェルパ（グデル村大工）

第37回のテーマはネパールです。今回の語り手は昨年に引き続き来日中のニマ・シェルパさんです。ニマさんはグデル村出身で小学生の時まで村で過ごしました。中学生の時は一週間の食料と薪を持って寝泊りしながら移動して、学校に向かっていたそうです。

しかしその状況で勉強をするのは難しいことに加えて、家族の収入を支えたいと思うようになり、2年間大工の学校に通いました。その後ネパールの首都カトマンズで家具の職人として働いていた時に地震が起り、日本からやってきたCODE事務局長の吉椿さんと出会ったそうです。

ニマさんが村で生活していて幸せを感じるのは、定期的にある村の皆が集まるお祭りに参加するときだそうです。家族と居たり地域のコミュニティに入ったりすることに幸せを感じるのは、あたたかいつながりがあつて素敵だと思いました。

ニマさんのこれから夢は、好きな大工の仕事を続けながら地元の大工を目指す若い人たちに大工の仕事を教えていきたいそうです。

今回の食はダルバードです。豆のスープとイモのカレーです。ネパールでは定番の定食のようなもので、今回はグデル村風でお届けしました。



上:故郷を紹介するニマさんとラクパさん

下:ダルバードに付け合わせるタルカリ

第38回 僕なりの援助のハナシ～フィリピンを再び訪れて～

2017年12月21日開催 語り手：羽田和真（神戸大学2年生）

第38回のテーマはフィリピンです。羽田さんは2016年8月にCODE未来基金フィールドワークでフィリピンを訪れ、2017年8月にはCODEの活動の一環でフィリピンの地域住民の方に防災や減災のヒアリングを行いました。今回は主に活動での羽田さんの考え方や心境の変化について語っていただきました。

現地の方たちと関わり、自問自答を繰り返すことで新しい発見がたくさんあったようです。

羽田さんの考え方方が「世界の貧

しい人を助けたい」から、もっと具体的に「この人のためにこんなことがしたい」に変わってきました。羽田さんが「少し離れた親戚に会いに行く感覚で、自分の友達を助けるくらいの気持ちで関わりたい」と言うように、理想の支援の形だと思いました。

今回の食はシシグという料理で、細切れにした豚肉と野菜の炒め物でした。本場では味が濃く、豚肉は揚げてあるそうです。



上:羽田さんがフィリピンの様子を語る

下:フィリピンのローカルフード、ポークシシグ

第39回 多様なる雲南～日本のルーツを求めて～

2018年2月15日開催 語り手：吉椿雅道（CODE事務局長）

第39回のテーマは中国雲南省です。テーマ・雲南省は第25回に続き2回目の開催となります。

雲南省では1996年にM7.0の地震が発生し、CODEは小学校の再建の活動をしていました。2014年にも大きな地震が起こるなど雲南省は地震頻発地であるそうです。

今回の食と国際協力では主に災害のお話ではなく、雲南省の暮らしと食や雲南から見える中国について語っていただきました。

吉椿さんは先住民族を支援する団体に関わりながら、屋久島で先住民の方と自給自足の生活をしていた時に照葉樹林文化論を知り、

その源である雲南省を目指して4年かけてアジアを旅していました。

日本のなれ寿司が雲南省にも古くからあったり、顔が日本人とそっくりだったりという、実は日本発祥ではないものの原点や共通点を知ることで雲南省を身近に感じることが出来ました。一方で、過剰な観光開発や少数民族の貧困、環境問題など課題もあることを学びました。

今回は過橋米線（雲南省特有の米の麺）を、鶏肉を煮たスープに浸けていただきました。付け合せのきくらげや豚肉とも良く合い、あっさりしていて食べやすく好評でした。



上:雲南省と日本のつながりを語る

下:伝統的な麺料理、過橋米線を食べる

第40回 一人前ってどれくらい？～エルサルバドルと日本とごはんから教わったこと～

2018年3月8日開催 語り手：岸本くるみ（人と防災未来センター震災資料専門員）

第40回のテーマはエルサルバドルです。エルサルバドルでは、2001年にM7.6の地震が発生し、CODEは現地のYMCAや海外研究員のクワテモック設の支援を行いました。

今回の食と国際協力では、元CODEボランティアスタッフで、青年海外協力隊としてエルサルバドルに滞在していた岸本くるみさん（人と防災未来センター震災資料専門員）に、現地の人・暮らし・食について語っていただきました。岸本さんは青年海外協力隊の村落開発研究員（防災）としてエルサルバドルに滞在していました。『防災』と一口に言ってもエルサルバドルでは、バスジ

ヤックをされた時の対応や、手洗い教室を実施されていたそうで、国が違えば『防災』も違うのだということを気付かされました。また、エルサルバドルは治安が悪いという印象を抱いていた参加者の方も、現地の人の様子や、食事を通して、実際にやってみたい興味がわいたとイメージが変わった様子でした。

今回の食はフリホレース（甘くない豆の煮もの）とブティン（パンプディング風のおやつ）とコーヒーでした。エルサルバドルのコーヒーとブティンの甘さがとても良く合っていて、本場の味を感じることが出来ました。



上:岸本さんが語るエルサルバドル

下:エルサルバドルの煮豆フリホレス

イベント案内

第43回食と国際協力（テーマ：台湾）

2018年6月21日(木)、第43回食と国際協力を開催します。テーマは「台湾」です。CODEは1999年台湾集集地震の際に救援活動を実施しました。今年3月に台湾を訪れた兵庫県立大学の澤田雅浩先生、宮本匠先生、被災地NGO協働センター代表の賴政良太さんを語り手に、台湾集集地震被災地の今をお伝えします。お気軽にご参加ください。

日時:2018年6月21日(木)18:30~20:00

場所:CODE事務所(阪急・阪神・神鉄 新開地駅 徒歩5分)

今後の食と国際協力

第44回 7月19日(木)18:30~20:00 テーマ国:フィリピン

語り手:瀬木志央さん(甲南女子大学文学部講師)



先住民プノン族の文化センター建設(潭南村)

CODEの夕べ2018を開催します

6月16日(土)、今年も総会終了後、交流会「CODEの夕べ」を開催いたします。年に一度の会員や寄付者の皆さまと顔を合わせてお話しするとのできる機会として、スタッフも毎年楽しみにしている企画です。お食事と一緒に、CODEがこれまで行ってきた救援活動のご紹介やCODE未来基金に参加した若者の報告などを行います。貴重な機会ですので、ぜひ皆さまお越しください。

日時:2018年6月16日(土)18:30~20:30(受付開始18時)

場所:兵庫県民会館7階「鶴」

参加費:大人 3500円 学生 2000円

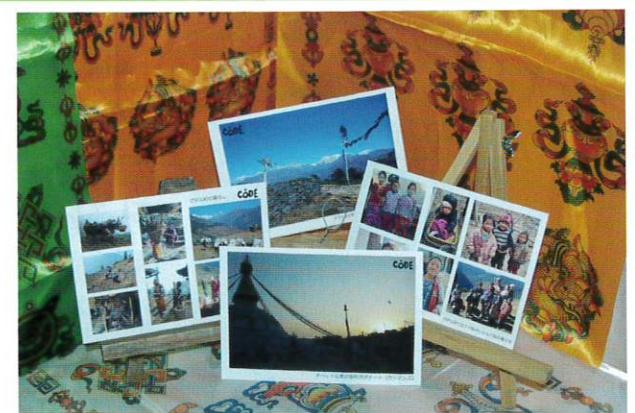


昨年のCODEの夕べの様子

ポストカード販売 始めました！

CODEがこれまで支援してきたネパール、フィリピン、四川省、青海省のポストカードを作成しました。全11種類の中から8枚1セットを1000円で販売します。CODEが支援している各国の自然、文化、人の様子が伺えるポストカードとなっています。団体ウェブページ、ショッピングサイト、お電話などでご注文を受け付けています。ぜひお気軽に求めください。会員の方には、今号のCODE Letterに特典としてポストカードを1枚プレゼントしています。

ショッピングサイトBASE店舗URL <https://code1995.thebase.in/>



12月

18日 CODE 理事会

19日 甲南女子大学 瀬木先生とフィリピンの打ち合わせ(吉椿)
神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(村井理事、上野、高橋)

20日 チームひょうご「ネパール地震報告会」で報告(吉椿、高橋)

21日 第38回食と国際協力「フィリピン」(羽田和真さん)
関西学院大学人間福祉学部社会起業特論C(村井理事)

22日 被災地NGO協働センター 賴政さんインタビュー(高橋)

23日 ワンワールドフェスティバル for Youth でブース出展(吉椿、上野、高橋)

25日 神戸学院大学 井本さんヒアリング(吉椿)

日本経済新聞取材(吉椿)

26日 寺子屋冊子校正ミーティング(吉椿、高橋)

27日 大掃除

28日 近畿ろうきん 中須さんと打ち合わせ(吉椿)
仕事収め

1月

1日 CODE 未来基金プログラム申請受付開始

4日 棚木理事と広報打ち合わせ(上野)

5日 仕事はじめ

9日 CODE 未来基金サポートミーティング準備ミーティング
(上野、高橋)

10日 龍谷大学国際NGO論で講義(吉椿)

11、24、26、29日、3月5日 神戸工科高校にて授業(上野)

16日 神戸学院大学社会防災特別講義Ⅱ(村井理事、高橋)
まなびと石野さんインタビュー(高橋)

17日 1.17追悼

寺子屋冊子校正ミーティング(吉椿)

CODE 未来基金サポートミーティング準備ミーティング
(上野、高橋)

18日 JICA関西へ広報(吉椿、高橋)

モンベルで報告会の打ち合わせ、下見(吉椿、高橋)

22日 寺子屋冊子校正ミーティング(宮津さん、吉椿)

23日 DRAフォーラムに参加(吉椿、高橋)

第4回日中NGOボランティア研修交流事業の事前説明会
(高橋、吉椿、上野)

24日 甲南女子大学フィリピン勉強会(吉椿、上野、高橋)

IRP国際復興フォーラム2018に参加(吉椿)

31日 未来基金四川フィールド研修の事前説明会(吉椿、上野)
被災地NGO協働センター2017年寺子屋「こんな生き方あつたんだ!? 第8弾」(山口一史さん)に協力

2月

1日 CODE 寺子屋「NGOが災害支援する意義とは」開催

2日 未来基金フィールド研修申請者との打ち合わせ(吉椿、上野)

3日 ネパール地震活動報告会inモンベル開催(高橋、吉椿)
大学コンソーシアムひょうご神戸「多文化共生から始まる防災・減災と復興」に登壇(羽田さん、上野)

4日 ワンワールドフェスティバル「事例紹介!高校生・大学生とNGOがつながる方法とは?」(上野、高橋、吉椿)

7日~14日 ネパール地震第7次派遣(吉椿)

8日 神戸ソーシャルキャンパス大福さんインタビュー(高橋)

14日 未来基金申請希望の学生と面談(上野)

15日 未来基金申請者との打ち合わせ(吉椿、上野)

第39回食と国際協力「雲南」(吉椿)

16日 兵庫県立大学減災復興シンポジウムで登壇
(室崎副代表理事、吉椿)

関西NGO協議会谷川さんインタビュー(高橋)

第4回日中NGOボランティア研修交流事業の事前学習会
(高橋、吉椿、上野)

17日 コープこうべ岡田さんとの事業計画の打ち合わせ
(岡田理事、吉椿)

19日 CODE 理事会

21日 未来基金申請者打合せ(吉椿、上野)

22日 未来基金四川フィールド研修事前説明会(吉椿、上野)
関西NGO協議会理事会に出席(吉椿)

24日 第2回CODE未来基金サポートミーティングを開催
26日 近畿ろうきん兵庫事務所で打合せ(吉椿)

27日 サポートミーティング振り返り(賴政、高橋、上野)

3月

1日 第4回日中NGOボランティア研修交流事業事前ミーティング(高橋、吉椿、上野)

1、12日 報告会を盛り上げよう会(賴政、高橋、上野)

2日 関西国際大学林先生と講義の打合せ(吉椿)
CODE未来基金年間計画打合せ

(岡田理事、棚木理事、村井理事、高橋、上野)

5日 未来基金四川フィールド研修事前打ち合わせ(吉椿)

7日 ヒューマンノート、ハイチのヒアリング(吉椿)

8日 第40回食と国際協力「エルサルバドル」(岸本くるみさん)
CSネットワークフォーラム意見交換会(上野)

12日~19日 第4回日中NGOボランティア研修交流事業で四川を訪問(高橋、吉椿)

16日 第2回兵庫国際協力同士の会勉強会(上野)
2018年度前期CODE未来基金選考委員会事前打ち合わせ

(芹田代表、松田理事、上野)

23日 近畿ろうきん笑顔プラス・第1回寄付先合同会議(上野)

22日~30日 CODE未来基金四川フィールドワーク同行(吉椿)

26、27日 共同通信取材(吉椿)

31日 関西NGO協議会30周年レセプション(吉椿、上野)

4月

1日 CODE未来基金活動報告会を開催

3日 CODE未来基金年間計画打ち合わせ
(岡田理事、棚木理事、上野)

4日 神港橋高校インターの打合せ(吉椿)

5日 2018年度前期CODE未来基金選考委員会(芹田代表、棚木理事、宮本さん、西海さん、柳瀬、上野)

6日 毎日新聞四川地震10年の取材(吉椿)

7日 CODE未来基金サポート企画お花見

9日 神戸新聞ネパール地震3年の取材(吉椿)

16日 神戸学院大学社会防災特別講義IVで講義(吉椿)
プラスアーツJICA草の根事業報告会に参加(吉椿)

会員・寄付者 ご芳名（50音順・敬称略）

2017年12月3日～2018年4月30日

ご支援をいただきありがとうございます。12月3日～4月30日までの期間でのべ75名の方からご寄付をいただき、36名の方に会員となっていました。皆さまからのご寄付、会費は大切に使わせていただきます。今後ともご支援、ご協力をよろしくお願いします。

【事務局運営、各救援プロジェクト、未来基金などへのご寄付】(のべ75名)

青木洋隆、阿部好一、井出賢、井上由紀子、今中麻里愛、岡本善弘、加藤清、加藤ちえ、川村真理、岸野春子、清須賢、桐島道衛、神戸YMCA、小林アイ子、阪井健二、酒井達恵、佐藤和子、島本久嗣、高田秀峰、田辺エツ、谷雅博、旦保立子、陳佳子、鄭恵姫、中里一実、長澤雄二郎、沼田賽、林ひさ子、久松滋、兵頭晴喜、藤下政雄、紅谷昇平、松本誠、三浦真理子、水野明代、南裕子、室崎益輝、めふコーパ委員会、安富信、山本良治・佳子、吉永孝代、米川安寿、渡辺知佐子、亘佐和子

【賛助会員】(のべ36名)

青木クリニック、石田奈津子、井上由紀子、宇都幸子、大槻輝美、木下洋子、小林アイ子、阪井健二、新崎廣治、杉田文夫、芹田希和子、空野仁志、高橋夏美、竹代一洋、田中圭子、田辺エツ、旦保立子、土井勉、福井敬朗、紅谷昇平、南裕子、村井新聞店、最上沙紀子、山岸周平、砂川光、渡辺知佐子

ともにCODEを創りませんか

■入会のお願い

私たちとともにCODEの活動を担っていく会員を募集しています。

【賛助会員】

個人・学生：年会費 2,000円×1口以上
NPO/NGO：年会費 2,000円×1口以上
企業・団体：年会費 10,000円×1口以上
ほか、正会員をご希望の場合は事務局までお問い合わせください。

■ご寄付のお願い

CODEの活動を継続するために皆さまからのご寄付を募っています。救援プロジェクトへのご寄付は25%を上限としてCODEの管理運営費に使わせていただいております。ご協力お願いいたします。
※ご寄付をいただく際には備考欄、通信欄などに用途（例「ネパール」）をご記入ください。

郵便振替

加入者名：CODE
口座番号：00930-0-330579

銀行振替

ゆうちょ銀行
支店名：〇九九店（ゼロキュウキュウ）
支店番号：099 預金種類：当座
口座番号：0330579
加入者名：CODE

■事務所での作業や翻訳、自宅でも作業可能なボランティアも募集しています。

■講演会、報告会を開催してみませんか？

あなたの住んでいる地域で開催される講演会にCODEのスタッフを講師として派遣します。お気軽にお問い合わせください。